

日本フィルハーモニー交響楽団 佐渡公演2026

ベートーヴェン

運命

第1楽章

交響曲第5番

ヴァイオリン独奏&コンサートマスター:

田野倉雅秋

(日本フィルソロ・コンサートマスター)

© 井村重人

★日本フィルハーモニー交響楽団
★佐渡市内の中高生

【佐渡市内中高生と日本フィルの合同演奏】

コーデイル: バンドのための民話

【日本フィルハーモニー交響楽団】

グリーグ: 組曲「ホルベアの時代より」～プレリュード

モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K216
(独奏: 田野倉雅秋)

芥川也寸志: 弦楽のためのトリプティック～第1楽章

バルトーク: ルーマニア民俗舞曲

バッハ: G線上のアリア

エルガー: 愛の挨拶

チャイコフスキー: 弦楽セレナーデ～第2楽章 (ワルツ)

ベートーヴェン: 交響曲第5番「運命」～第1楽章

指揮: **齋藤友香理**

© Kana Tarumi

2026年 **10.4日**

開演14:00(開場13:30)

アミューズメント佐渡

チケット料金〈消費税込〉

SS席: 5,500円 S席: 5,000円 A席: 4,500円

ファミリー席: 3,500円

*SS席～A席は1階指定席、ファミリー席は2階自由席です。

*未就学者の入場はご遠慮ください。

〈プレイガイド〉

ヒルトップアリーナ (佐和田) TEL.0259-67-7645

丸屋書店 (両津) TEL.0259-27-2238

玉箋堂 (羽茂) TEL.0259-88-2234

主催: 佐渡市教育委員会

制作: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

協力: 佐渡吹奏楽フェスティバル実行委員会

お申込み・お問合せ

アミューズメント佐渡 (佐和田) TEL.0259-52-2001

日本フィルハーモニー交響楽団 佐渡公演2026

～世界最高峰の響きを、佐渡で体感する～

オーケストラの音楽を初めて聴く方も、一度は耳にしたことがあるだろう名曲があります。それが、ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」第1楽章です。

「ジャジャジャーン」という力強い冒頭の旋律は、世界で最も有名なクラシック音楽の一つとして知られています。ベートーヴェンは、この作品に「運命が扉をたたき音」を重ねたともいわれ、苦難に立ち向かいながら未来へ進もうとする強い意志を音楽で表現しました。テレビや映画などで耳にすることはあっても、目の前で本物のオーケストラが奏でる迫力ある演奏を体験する機会は決して多くありません。数十名の演奏家が一つになって生み出す壮大な響きは、録音では味わえない感動を届けてくれるでしょう。

今回の公演では、日本を代表するオーケストラである日本フィルハーモニー交響楽団が佐渡を訪れます。指揮は齋藤友香理さん、そしてソロ・コンサートマスターの田野倉雅秋さんによる華麗なヴァイオリン独奏も大きな聴きどころです。モーツァルト《ヴァイオリン協奏曲第3番》では、繊細で美しく、時には情熱的な音色を間近でお楽しみいただけます。

また、プログラムにはグリーグ《ホルベアの時代より》、バルトーク《ルーマニア民俗舞曲》、J.S.バッハ《G線上のアリア》、エルガー《愛の挨拶》、チャイコフスキー《弦楽セレナーデ》第2楽章「ワルツ」など、世界中で愛され続ける名曲が並びます。それぞれ異なる時代や国の魅力を感じられる構成となっており、クラシック音楽の豊かな世界を一度の公演で味わうことができます。

そして、この公演最大の特徴は、日本フィルハーモニー交響楽団と佐渡市内の中学生・高校生による合同演奏です。プロの演奏家と佐渡の未来を担う若者たちが同じ舞台上立ち、《バンドのための民話》を演奏します。世代や立場を超えて一つの音楽を創り上げる姿は、この公演でしか味わえない感動の瞬間となるでしょう。子どもたちにとっては一生の財産となる経験であり、客席から見守る皆様にとっても、佐渡の未来へつながる希望を感じられる特別なステージになるはずです。

音楽は、言葉を超えて人の心を動かします。世界で活躍するプロフェッショナルの演奏に触れ、未来を担う佐渡の若者たちの真剣な姿を目の当たりにすることができるこの公演は、世代を問わず多くの方にお楽しみいただけます。本物のオーケストラだからこそ味わえる圧倒的な響きと感動を、ぜひアミューズメント佐渡でご体感ください。

Program 【佐渡市内中高生と日本フィルの合同演奏】

コーディル： バンドのための民話

【日本フィルハーモニー交響楽団】

グリーグ： 組曲《ホルベアの時代より》～プレリユード

モーツァルト： ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調 K216
(独奏：田野倉雅秋)

芥川也寸志： 弦楽のためのトリプティーク～第1楽章

バルトーク： ルーマニア民俗舞曲

バッハ： G線上のアリア

エルガー： 愛の挨拶

チャイコフスキー： 弦楽セレナーデ～第2楽章（ワルツ）

ベートーヴェン： 交響曲第5番「運命」～第1楽章

齋藤友香理 (指揮)

Yukari Saito, Conductor

東京都出身。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ピアノ科卒業後、同大学の科目履修生『指揮』に在籍し、黒岩英臣、高関健、梅田俊明の各氏に師事した。2009年からはローム ミュージック ファンデーションの指揮セミナーで小澤征爾、湯浅勇治、三ツ石潤司各氏の指導を受ける。その後小澤征爾氏により指揮研修生に選ばれ、特別レッスンを受講する。そして2010年9月にサイトウ・キネン・フェスティバル松本(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)で青少年のためのオペラ《ヘンゼルとグレーテル》を指揮し、オペラデビューを果たした。また同年からは一年間、公益財団法人 新日鉄住金文化財団「指揮研究員」として紀尾井ホール室内管弦楽団および東京フィルハーモニー交響楽団で研鑽を積む。

2013年9月からはドイツのドレスデンに拠点を移し、ドレスデン音楽大学大学院指揮科に在籍、G.C.ザンDMAN教授に師事し、修了。その間、ドレスデン音楽祭総監督であるヤン・フォグラーの推薦によりモーリッツブルグ音楽祭に招かれ、ハインリヒ・シフのアシスタント指揮者を務める。2015年、第54回バザンソン国際指揮者コンクールで聴衆賞とオーケストラ賞を同時受賞。2016年にリール国立管弦楽団を指揮し欧州デビューを果たす。また 2017年には、ウィーンのトーンキムンストラ管弦楽団との公演において、ダニエル・オッテンザマーと共演。2018年5～7月にはバイエルン州立歌劇場で上演されたワーグナー《パルジファル》で、音楽監督キリル・ペトレンコのアシスタントを務めた。

国内では、読売日響、東京響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティ・フィル管、神奈川フィル、札幌響、山響、群響、京都市響、大阪フィル、日本センチュリー響、関西フィル、大阪響、名古屋フィル、アンサンブル金沢、兵庫県立芸術文化センター管、九州交響楽団などを指揮。



© Kana Tarumi

田野倉雅秋 (ヴァイオリン独奏/コンサートマスター)

Masaaki Tanokura, Violin

4歳よりスズキ・メソッドでヴァイオリンを始める。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学に進学。スカラーシップを得てニューヨークのジュリアード音楽院へ留学し学士号を取得。さらに文化庁派遣芸術家在外研修員として海外研修に参加。アスペン音楽祭、モスクワ音楽院マスターコース・イン・ジャパン、京都フランス音楽アカデミーなど国内外の研鑽を重ねる。故小国英樹、原田幸一郎、清水高師、川崎雅夫、故ドロシー・ディレイ、チャールズ・リンの各氏に師事。

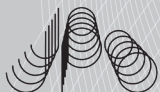
全日本学生音楽コンクール、日本音楽コンクール、ロン・ティボー国際ヴァイオリンコンクールなどで優秀な成績を収め、アスペン音楽祭コンチェルト・コンクール優勝、フォーバルスカラシップ・ストラディヴァリウスコンクール入賞を経て、デンマークのカール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクール優勝。国際舞台でその実力を確立。

ソリストとして日本、アメリカ、フランスをはじめ国内外でリサイタルを開催。日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団など主要オーケストラと共演し、秋山和慶、大植英次、大友直人、山田和樹をはじめ国内外の名指揮者と共演を重ねる。デンマークではコルンゴルト《ヴァイオリン協奏曲》の同国初演、チェコ・ヤング・ブラハ国際音楽祭ではチェコ国民劇場管弦楽団との共演を果たすなど、海外でも高い評価を獲得。

広島交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団でコンサートマスターを歴任。現在、日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター、兵庫芸術文化センター管弦楽団コンサートマスターを務める。さらに全国の主要オーケストラへ客演コンサートマスターとして招聘されるほか、別府アルゲリッチ音楽祭、アベル弦楽四重奏団、室内オーケストラ「アルクス」など幅広い演奏活動を展開。日本を代表するヴァイオリニストの一人として、ソロ、室内楽、オーケストラの各分野で存在感を放つ。



© 井村重人



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立。楽団創設の中心となった渡邊曉雄が初代常任指揮者を務める。創立当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。2023年9月よりカーチン・ウォンが首席指揮者を務め、その独創性と真摯さに裏付けられた音楽作りが注目されている。近年の高い演奏力と積極的なプログラミングは「21世紀の日本のオーケストラが目指すべき方向を明確に示す」と評価され、ミュージックペンクラブ音楽賞を受賞した。桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) 広上淳一という指揮者陣を中心に年間150回を超えるオーケストラ公演を行っている。芸術性と社会性を両輪とし、「温かさ」「人に寄り添う」土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。

◆オフィシャル・ウェブサイト <https://japanphil.or.jp>
◆X (旧Twitter) @Japanphil ◆Instagram@japanphil.official

特別企画 佐渡市内中高生と日本フィルの合同演奏

地元の音楽の未来を担う、金井中学校吹奏楽部、佐和田中学校ブラスバンド部、佐渡中等教育学校吹奏楽部、佐渡高校吹奏楽部、そして佐渡市認定地域クラブ活動(吹奏楽)のメンバー総勢44名が、このコンサートのために特別に編成されました。1曲目のステージに登場!指揮者・齋藤友香理氏のもと、日本フィルハーモニー交響楽団の管打楽器奏者と合同で「バンドのための民話」を力強く奏でます。学校の垣根を越え、ひとつになった佐渡の若き息吹とプロの技が織りなす、奇跡のコラボレーションが実現します。お楽しみに。